



ACEF ニュースレター

2022年7月

ACEF会員、サポーター、関係者各位

いつもACEFのメールニュースをご愛読いただきありがとうございます。ACEFの日本での活動とバングラデシュでのパートナーとの共働事業の今を伝えるために、会員、寄付者、イベント等で出会ったみなさまにお送りしています。本日はACEFの最近の活動やイベントのご案内、そしてバングラデシュ現地の情報をお伝えしたく8本の記事をお届けいたします。

✨ What's New! ✨

- ①<巻頭言>「共に」の意味 (井上儀子 理事)
- ②クラウドファンディング：バングラデシュの子どもに図書室を！
- ③春のサービ斯拉ーニング参加の学生より一言メッセージ (国際基督教大学)
- ④夏季募金のお願い
- ⑤3年ぶりのバングラデシュ・スタディツアー実施。報告会のご案内
- ⑥ACEF夏の尊厳カフェのお知らせ
- ⑦バングラデシュの洪水について
- ⑧英語のウェブページが開設されました！

※PDFのニュースレターはホームページよりダウンロードできます。

URL→ https://acef.or.jp/mail_mag_2022july/

※English version available on homepage!

<巻頭言>井上儀子 理事

「共に」の意味

「ACEFのビジョンとミッションの言葉の中に、「共に生きる喜び」「共に生きることの実践」「共に育つ場」と、「共に」という言葉が3回でてきます。それだけ「共に」という言葉に深い意味があるのだと思っています。

ACEF創立の1990年は国際識字年の年で、日本ユネスコ協会が世界寺子屋運動を始めた年でもあります。様々なNGOが開発途上国に支援活動を始め、勉強会も開かれ、私も他のNGOの仲間と一緒に、パウロ・フレイレの本から開発途上国での識字のプロセスを学びました。そこで気がついたことは、先

進国の人たちが犯しやすい過ちは、どうしても上から目線になり、「何かを教えてあげる」「何かをしてあげる」「私たちが助けてあげるんだ」という気持ちだということです。

バングラデシュへのACEFスタディツアーは43回と回を重ねましたが、多くの参加者の感想は「何かをしてあげられると思ったのに何もできなかった。そればかりか与えられるばかりだった」というものでした。ACEFの活動は一方通行ではないのです。バングラデシュの人たちも、日本の人たちも、お互いに教えられ、学び合って、共に成長していきたいと願っています。同じ目線で見れば、必ず良い友人に恵まれ、そこに心が動く関係が生まれます。ACEFで共に活動して、共に喜び合える社会を、世界を築いていきましょう。」（井上儀子）

クラウドファンディング：バングラデシュの子どもたちに図書室を！

7月15日（金）よりクラウドファンディングがスタートしました。

ACEFのパートナーであるBDPが運営している42校の小学校のうち、ほとんどの学校には図書室がありません。2022年3月に2つの図書室が設置されましたが、**残りの40校に通っている子どもたちには絵本へのアクセスがない状況です**。先日ダッカのBDP小学校の先生方にお話を伺ったところ子どもたちは本を読むことが大好きと教えていただきました。しかし、現在こちらの学校では学校全体で絵本を7冊しか保有していないため先生が自宅から本を持ってきたり、同じ本を繰り返し読み聞かせに使用しています。

今回のクラウドファンディングを通してさらに4つの学校に図書室を設置し、一人でも多くの子どもに読書の機会を、そして読書から得られる豊かな学びをサポートしたいと願っています。一つの学校に図書室を設置するためには10万円（本棚、絵本など）が必要です。4つの学校に図書室を設置するためには40万円必要です。1つの学校にはおおよそ100名の生徒がいます。**4つの学校に図書室を設置できれば、400名の生徒が身近に教科書以外の本がある環境で学ぶことができます。どうぞ皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。**

また、バングラデシュ訪問中のスタディツアーメンバーの活動と一緒に参加し、現地の小学校の教室から子どもたちや授業の様子などをご紹介するオンラインイベントを開催いたします！

- 日時：①8/6（土）12:30～13:00 ジャマルプールよりインスタグラムLIVE配信
②8/9（火）12:30～13:00 ダッカよりインスタグラムLIVE配信
③8/9（火）14:00～15:00 ダッカよりZoomミーティング

● 応募方法：

①ACEFのインスタグラムをフォローいただくと、LIVE配信をみることができます。（フォローする→<https://www.instagram.com/acef.ngo/>）

②クラウドファンディングのLINE open chatにご参加いただくと、そちらに当日のZOOMリンクが共有されます。

（参加する→ https://line.me/ti/g2/GukrQHgo04SuXEnci3b8r7xeMJ7S6mNgfhOalQ?utm_source=invitation&utm_medium=link_copy&utm_campaign=default）

「バングラデシュの子どもたちに図書室を！」（7/15-8/15）

Crowdfunding Website : <https://rescuex.jp/project/12730> QR→



【クラウドファンディングを運営している学生からメッセージ】

竹花真彩

大学1年生 国際基督教大学

アジアキリスト教教育基金（ACEF）でインターン中

「私は高校生の時にハワイに住んでおり、そこで初めて貧困という問題に直面しました。ハワイの貧困率は9%というアメリカの中で6番にホームレスが多い州となっています。そこで、私はホームレスシェルターにボランティアとして通っていました。そして、シェルターには大人だけではなく子ども達



もそこで暮らしていました。そこで感じた事が、物資を配ったり、シェルターの方達とお話するだけでは小さい規模で長期的な解決策ではないと感じました。今日本にいる私は直接的な支援ではなく、間接的な支援をするべきだと思い、ACEFで支援を必要としているバングラディッシュの子どもたちの教育の為にクラウドファンディングを実行することに決めました。」

ハンスヨン

大学1年生 国際基督教大学

アジアキリスト教教育基金 (ACEF)でインターン中；春学期 サービスラーニング参加



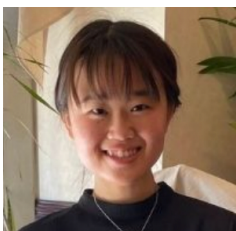
「小学校の時お母さんについてインドネシアに宣教奉仕に行きました。劣悪なところで学校を建て、授業をする宣教師たちを見ながら「なぜここに病院ではなく学校を建てるのか?」という疑問を持つようになり、その答えを知りたくなりました。また、現在記者という夢がありますが、遠い将来宣教師として働きたい希望があるのでACEFでの活動は私にとって意味が大きいです。大学の最初の学期にサービスラーニング科目で18時間のサービス活動をACEFで活動し、夏休みにはインターンとして働いています。」

石井萌子

大学2年生 青山学院大学

アジアキリスト教教育基金 (ACEF)にて前期にサービスラーニングで活動

「青山学院大学のサービスラーニングという授業では、まずACEFやBDPの方からバングラディッシュの現状について学びました。それを踏まえ、初等部（付属小学校）の生徒たちにACEFのビジョン・ミッションにあるような「共に生きる」という考え方を伝える特別授業を行いました。バングラディッシュの小学校に本は少ないものの、本自体は大好きであるということが日本の子どもたちとの共通点であると考え、授業の中でバングラディッシュの同い年の子どもたちに向けて、読書の好きなところを伝える手紙を書いてもらいました。顔は知らない遠い国の「お友達」に向けて手紙を書く姿が、とても生き生きとしていたことが印象的でした。今夏、私はこの手紙を直接バングラディッシュの小学校に届けに行きます。バングラディッシュに図書館が増えたら、「お友達」も喜んでくれるだろうと思っています。」



春のサービスラーニングの学生より一言メッセージ

ACEFでは2019年より、さまざまな大学でサービスラーニング（サービス活動を通じた学び）を受講している学生を受け入れています。今年の春のサービスラーニングでは国際基督教大学から4名、青山学院大学から2名の学生がACEFと関わりを持ってくださいました。1ヶ月ほどの短い期間ではありましたが、一人ひとり一生懸命に学びACEFとともに活動をしてくださいました。

（国際基督教大学1年・ハンさん）

「幼い頃インドネシア孤児院に教育宣教に行ったのがきっかけで宣教に関心があったため自然にACEFでサービス活動を始めました。ACEFはバングラディッシュのNGOのパートナー団体として活動しているため、期待とは異なり直接現地の人と接する機会がありませんでしたがサービス活動を通して、自分自身について考えさせられる機会が多くありました。ある社会現象を目撃して問題意識を感じて、私がそれに影響を与えたい時にどうすればいいのか、そのアプローチを学びました。そしてチームメンバーとNGO団体とどのようにコミュニケーションするのか、その方法を学びました。そして印象深かったのはサービス活動というものが必ずしも経済的に厳しい環境あるいは劣悪な環境で起きるのではなく、私たちが生活する日常生活の中でどこでもニーズがあれば、そこはサービス活動の場面となりうるということです。政治、国際関係、北韓(北朝鮮)、宣教など社会問題に関心が高い私が、ここで学んだことを持って善良な影響を与えながら生きていきたいです。」

(国際基督教大学2年・平林さん)

「18時間のSL活動は長かったようなあつという間だったような感覚でいますが、私はこの活動を通して自分の考え方のバイアスに気づくことができました。

SL活動を始める前、私は、国際的な教育支援をしているACEFと関われば何かしらの形で社会問題の解決に携われる・貢献できると考えていました。しかし、現実的に考えて18時間の活動の中で解決するのは無理なことであり、解決することを期待していた私は無力に感じるが多々ありました。

解決するには知識や経験など、これから積まなければならないことが多くありますが、今の私には「社会問題を解決できなくても関わることができる」ということに気づきました。

社会問題の最終的なゴールである解決策を見るのではなく、今自分がいる立場から社会問題とどのような関わりを持つことができるのか、将来自分が社会問題を解決できるスキルを鍛えるために今出来ることはなにか、と自分の足元を見て社会問題と関わる新たなことを発見することができたと思います！」

(国際基督教大学2年・井上さん)

「私は教育支援に関心があり、ACEFでのサービス・ラーニング活動を希望しました。振り返ると、活動を始める前は支援する側として何ができるのかといったことばかり考えていたように思います。しかし、ACEFの理念を学んだり、ACEFやBDPの方々のお話を伺ったりしたことで、日本もバングラデシュも同じアジアに住む仲間であり、バングラデシュの課題は日本の私たちも自分事として考え、取り組むことが大切だと気づくことができました。私にとって、これから社会で生きていく上で自分の核となる価値観、考え方を得る機会となる貴重な経験をさせていただきました。短い期間でしたが、沢山の学び、気づきがあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。私たちを快く受け入れてくださったACEF関係者の皆様に深くお礼申し上げます。」

(国際基督教大学2年・秋吉さん)

「私はこれまでバングラデシュや教育について触れる機会が少なく、理解を深めるためにACEFで活動したいと思いました。また、検討中の段階ではありますが、教職課程にも関心があり、バングラデシュの教育支援をされているACEFを選択したことは私にとってとても自然なことでした。活動を始めた当初は、現地に赴くことのできない私が支援者ではなく、彼らと同じポジショナリティに立つ者としての意識を得ることに対する葛藤がありました。そのため、「どうすれば同じポジショナリティに立てるか」、「なにもをもって対等なポジショナリティを構築していると言えるのか」という大きな問いを掲げて活動に専念しました。ACEFでの活動を通して、サービスの意義は、実はとても単純なことで他者への思いやり、慈愛の心なのではないかと感じました。目の前にいる誰かに優しくしたり、日本に住むバングラデシュ人との交流を深めたり、理解をしようとするところから始めたいと思いました。この働きかけにより、その人がまたバングラデシュへ帰ったときにバングラデシュのためにできることをしてもらえる気がします。やさしさの輪は国境や人種、言語、あらゆる境界線の外にあり、どこまでも広がっていく可能性に溢れているはずです。いつの間にか金銭的なことに囚われ、大切なことを見落としてしまっていたことに気づきました。また、誰が当事者であるとか、どこが現場であるかは関係なく、一緒になって変化を求め、同じ目標に向かって活動しているという点において、その関係に区切りはなく、全員が「当事者」ないし、「対等なポジショナリティ」にあると言えるはずです。私が活動の当初掲げていた問いのように、支援する側とされる側に区切って立場を考える必要なんてはなから無かったことに気づきました。」

(↓ボイシャキメラ祭り2022の様子)

(↓ベンガルカレーの作り方を学ぶ様子)



夏季募金のお願い

バングラデシュの42校のBDP小学校の約4,000人の学びは、皆様の寄付によって支えられています。現在の急激な円安と世界的な物価の高騰によって、ACEFも財政的に厳しい状況におかれています。皆様の温かい心で、コロナ禍後の学びもお支え下さい。夏期募金はクレジットカード/Amazon Pay/銀行振り込みで9月まで受け付けています。以下のURLから振込サイトに移動します。よろしく願いいたします。<https://syncable.biz/associate/ACEF1990/donate>

3年ぶりのバングラデシュ・スタディツアーを実施します。報告会にご参加ください

8月1日から10日間、3年ぶりに実施するバングラデシュ・スタディツアーに参加した学生メンバーがどのようなことを経験し学んだのか。現地の学校や子どもたち、先生方の様子やコロナ禍を通ったバングラデシュの様子を、スタディツアー参加者よりご報告いたします。ぜひ、お気軽にご参加ください！

- 日時：8月20日（土）20:00～21:00
- 参加方法：ZOOMオンラインまたは録画視聴
- 応募フォーム：<https://forms.gle/x7zBEhX7jWf8DAA47>
- 応募締切：8月19日（金）
- お問い合わせ：public@acef.or.jp

ACEF夏の尊厳カフェ開催のお知らせ・9月3日（土）

ACEFがビジョンにも掲げている「尊厳」って何だろう。尊厳の価値と傷つきやすさについて学んでから、身近な出来事から尊厳を大切にすること、傷ついたという経験を分かちあいながら、この世界を尊厳のメガネで見ようという、集いが「尊厳カフェ」です。毎月オンラインで高校生・大学生中心に運営してきましたが、初の対面での尊厳カフェを9月3日にSCFを会場に開催します。初めて参加する人も大歓迎です。遠方の方はオンラインでも参加できます。「尊厳」に関心のある方は、この機会に是非ご参加ください！

- 日時：9月3日（土）10:30～15:00（予定 時間は8月中旬に再度告知します）
- 場所・参加方法：対面参加は中野のSCF 又はZOOMオンライン
- 応募フォーム：<https://forms.gle/JxAK6BStBTM6iZ467>
- 応募締切：8月31日（水）
- お問い合わせ：dignity-wg@acef.or.jp

バングラデシュの洪水について

現在インド北東部とバングラデシュ北東部に甚大な被害を与えている洪水は過去20年で最悪とも言われています。国連バングラデシュ事務所の6月27日付け報告によれば、バングラデシュの9県の720万人が影響を受け、168万世帯が浸水し48万人が避難しているとのこと。今後5県の152万人が支援を必要とされていてパートナー団体のBDPの活動地区のうちネトロコナ地区もその対象地区に含まれています。BDPの報告によればネトロコナ地区の2つのBDP小学校が浸水し170名の児童が影響を受けています。雨季がおあってから校舎の修復などが必要になります。寄付はクレジットカード/Amazon Pay/銀行振り込みで受け付けています。以下のURLから振込願います（団体へのメッセージに「洪水支援」と記載下さい）。

<https://syncable.biz/associate/ACEF1990/donate>



英語のウェブページが開設されました！

ACEFの英語のウェブページが開設されました！日本だけでなく世界各地の方々にACEFの活動について知っていただき、ともに支え合いたいと願っています。また、英語ページから海外からの寄付も可能になりました。ぜひこちらのページも見てみてくださいね！ウェブページ→ <https://acef.or.jp/learn-more-support-now/>

SNSのご案内

皆さまにいち早くACEFのニュースをお届けすべく、ACEFでは各SNSも運営しております！

【Facebook, Instagram, Twitter, YouTube, LINE】

緊急アナウンスや祈祷課題以外にも、バングラデシュの日常風景や、ACEF国内外の活動について幅広いコンテンツをタイムリーにお届けします。ホームページからフォローできます！

ACEFホームページ↓

<https://acef.or.jp/>

また、LINEオープンチャットにてクラウドファンディングの情報を配信しています！ぜひこちらも参加して、クラウドファンディングのコミュニティーに参加しませんか？

LINE OPEN CHAT リンク:

https://line.me/ti/g2/GukrQHgo04SuXEnci3b8r7xeMJ7S6mNgfh0alQ?utm_source=invitation&utm_medium=link_copy&utm_campaign=default

QR コード→



皆さまの多大なるご支援とご協力に感謝申し上げます。
今後ともACEFをよろしく願いいたします。

(特活) アジアキリスト教教育基金 (ACEF)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館26号室

tel 03-3208-1925 fax 03-6278-9180

担当：出立

メールニュースについてのご意見や配信停止はpublic@acef.or.jpまで
